

[参考資料]

第4回総合計画策定委員会資料に対する委員意見

【計画全般】

①計画をつくること自体が目的化しているのでは。

将来こうなればすばらしいことが多く書かれているが、限られた財源で本当に実現できるのか疑問。また、10年後に日本中で当たり前になっていることまで記載。

→宮津市総合計画は、今後10年間の市の各施策の方向やあり方を示すものであり、市政全分野を網羅し総花的なものとなります。また、具体的方策につきましては、令和3年度からの5年間で実施していくこととしており、国や府の交付金も活用しながら財源を確保し、実施していきます。(京都府や他市町村も同様です)

②ひとつたりとも「宮津市の強み」が伝わってこない。

人口減少が市の最重点課題にも関わらず、人口減少対策にニュース性、独自性がなく、宮津市民以外には全くアピールしない。例えば香川県の「うどん県」のような強烈なメッセージの発信と若者のUIターンを促す独自性のある対策を打ち出すべき。

③この計画では宮津は何も変わらない。

行政として抜本的な改革は難しいと思うが、特色がないのは・・・

人口流入を望むのなら、メディアを味方につけ、全く新しいことに踏み出さないと何も変わらない。

→「宮津の強み」「メッセージ性」「独自性」「特色」「新たな一歩」がないとのご指摘については重点プロジェクト「若者が住みたいまちづくり」「宮津の宝を育むチャレンジ」において若年層の人口流入対策や経済活性化対策などを中心に具体的新規施策を検討し、特色やメッセージ性を出したいと考えています。

なお、移住定住促進に関しては、新たな取組にもチャレンジしていきます。重点プロジェクト「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」では、関係人口の施策を打ち出しており、コワーキングやワーケーションなど新たな取組を行っていくこととするとともに、現在、一部の企業とその取組に向けた協議を進めています。

メッセージ・情報発信という点では、この総合計画のもとで、シティプロモーション戦略(実施計画の位置づけ)を策定することとしており、京都府広報委員でもある専門家を招へいし、現在、検討を重ねております。

本日の委員会でも各委員から(方向性や具体策について)ご意見を頂きたいと考えております。

④計画の組み立てのスケルトンが必要。

- ・宮津市の潜在成長力(歴史文化、地理的環境、地域資源)を活かすとともに、地域再生先進地(リーダー力、田舎ならではの地域力、ゼロからの出発、若者ハート)に学ぶことが重要
- ・人が輝いて生きる(安心安全環境、自己実現追及、心の豊かさ)ことを中心に将来構想の柱とすべき。

→ご指摘の点については大変重要なことと考えており、本計画においても将来構想の3ページから5ページに市の現状と、7ページに何故この将来像にしたのかということも含めて将来像について記載させていただいております。なお、地域再生先進地から学ぶ先進事例については、「人財づくり」の具体の方策に「1 地域内の団体・組織等との連携や先進地取組の視察などのセミナー等を実施するとともに本市出身者や外部専門家派遣制度の活用などにより、地域リーダーを育成します。」と記載していますが、他の施策分野でも具体の施策等への記載を検討させていただきます。

⑤環境を大きな柱とすべき。

→ご指摘のとおり、環境は今後の市政の中で重要分野になりますので、テーマ別戦略「安心・安全に生活できるまちづくり」を「安心・安全に生活でき、環境にやさしいまちづくり」とし、その中で、環境についての記載を充実させます。

⑥エリア連携構想の削除を求める。

→来年度以降、各地域と一緒に各地域の課題や将来像についてしっかり話し合い、その上で各地域や様々な主体と連携して課題解決していくこととしており、その考え方や思いを記載したものをエリア連携構想としています。なお、人口減少や高齢化が急激に進む地域を持続させていく上でも避けては通れない課題と考えており、地域としっかりと議論していきたいと考えております。

⑦5つの視点 SDG s についての記載が観光分野だけとなっている。

→ご指摘のとおり、SDG s は今後行政を進める上で重要な考えと考えています。環境や福祉など様々な分野で盛り込めるよう検討させていただきます。

委員ご提案のSDG s のマーク挿入についても、計画の中に書き込んで、SDG s の意識付けを進めていきます。

⑧「基本計画中間案」の構成について

- ・「基本計画中間案」と「基本計画骨子案」の使い分けは。
- ・骨子案のほうが理解しやすいので、骨子案に数値目標をはめ込めば良いのでは。

→「基本計画骨子案」は、各施策分野の「5年間の対応方向」や「具体の方策」等の基本計画の骨格となる部分を記載したものです。この骨格部分に「数値目標」や「関連する計画」、「計画の構成」、「推進体制」等を追加して計画書の体裁に整えたものが「基本計画中間案」となります。最終的な基本計画は中間案と同等の形となりますこと、ご理解いただきますようお願いいたします。

また、総合計画が完成しましたら、分かりやすく内容をまとめた「概要版」を作成する予定としています。

⑨ 5つの視点 Society5. (ICT, AI) は、市としてどこまでやるのかを決定すべき。

→先端技術の活用については骨子案でも可能な限り記載しておりますが、ご指摘も踏まえ、市役所内でも議論・検討をさせていただきます。

【計画各論】

①一人当たり観光消費額が「現状と課題」と「数値目標」で乖離している。

→修正します。

②目標数値の単位を分かりやすく又は適切な単位に。

→ご指摘のとおり修正します。

③マイクロツーリズムはアフターコロナではなくウィズコロナでは。

→ご指摘のとおり修正します。

④目標項目と具体方策がミスマッチ。特に商工業分野で。

→ご指摘を踏まえ、目標項目について再度検討します。

⑤「行政だけでなく」を「行政主導のもと」に改める。

→宮津市が主導して市の将来像を実現すべきとの思いからのご意見と思いますが、市民とともに宮津市の将来像を実現する「共創」は本計画の根本的な考えであり、このままとさせていただきます。

⑥「活躍」を「輝く」に改めるべき。

→将来構想の7ページに記載のとおり「宮津市にかかわる一人ひとりが活躍すること」が重要だと考えておりますので、このままとさせていただきます。

⑦重点プロジェクト「若者が住みたい」を「若者を中心に誰もが住みたい」に改める。

同プロジェクトに情報発信、交流人口の施策が見えない。併せて、地域社会が若者を抱き込む戦略が見えない。

→重点プロジェクトは特に力を入れていくものとしており、若年層の人口流出、人口減少は市にとって最重点課題であるため、特に「若者定住」に着目してやっていくというものです。このままとさせていただきます。

⑧農林水産業振興に6次化やグリーンツーリズム等の視点を入れるべき。

→5年間の対応方向として「観光地である強みを活かし、市内の旅館・ホテルや飲食店への流通など地産地消を推進するとともに、異業種連携・6次産業化の推進や生産力の向上を図り、農林水産事業者の稼ぐ地力を高めます。」としており、ご指摘の視点は入れてあるものと考えています。また、具体的方策の7と9にもその考えに基づいた方策を記載しております。

⑨地域包括ケアシステムに求める理念と姿を明確に打ち出すべき。

→テーマ別戦略「健康で生き生きと幸せに暮らせるまちづくり」の施策分野「高齢者福祉」の項目で「地域包括ケアシステム」について方針を打ち出しています。

なお、その詳細な内容は、同時並行で策定中の第9次宮津市高齢者保健福祉計画で決めていくこととしています。

※総合計画では書きぶり簡略化していますが、総合計画の「10年後に目指す姿」と高齢者保健福祉計画の「目指すまちの姿」は同じものとなっています。